

菅公さん大解剖

四日市の夏の風物詩「大四日市まつり」。そして秋に行われる伝統的な祭礼「四日市祭」。まつりでは、さまざまな山車や練り物が登場し、訪れた人々を楽しませます。その中に、からくり人形を乗せた二層または三層の山車があります。今回は、「菅公」を紹介します。

「菅公」とは

筆を持った子どもの人形が、絵馬などに文字をしたためるからくり人形です。書き上げた書を学問の神様として知られる菅公(菅原道真)に見せ、菅公がうなずき褒めると、子どもたちは長寿を愛でる長唄「鶴亀」の曲によって舞い踊り、喜びを表します。最後は巫女が榊を振って、桶の紙吹雪を舞い上げ祝います。

山車の特徴

上山(上層部分)に菅公、額持ち人形、字書き人形がいて、前棚(下層部分)には巫女の人形がいます。上層の水引幕には菅原氏の家紋である梅鉢紋の刺繍が施されています。



《このコーナーでは、本市の魅力を市民の皆さんに再認識していただくことによって、シビックプライド(市民の誇り)を醸成することを目的として、毎月一つのテーマについて深く紹介していきます。今回のテーマは、「からくり山車(菅公)」です。》

人形と山車のヒミツ

からくり人形

人形方5人で操作します。

ナカデク(中人形) 上山に設置された人形。

七代目 玉屋庄兵衛作(昭和27年)



額持ち人形

字を書き終わると振り向き、観客に字を見せる。その後、菅公の前に進む。



字書き人形

(仕組みについては、次ページで紹介)



菅公(菅原道真)

手を上げてうなずき、扇子をあおいで童子たちを褒める。



マエデク(前人形)

前棚に設置された人形。

八代目 玉屋庄兵衛作(平成2年)



童女の巫女

手に桶と榊を持ち、演技の前に四方を清める。童子たちが褒められると、桶に入った紙吹雪を舞い上げる。

山車の内部

5メートルを超える山車が山車蔵に大切に収納されている

唐破風(からはふ)屋根

細い四本柱で支えられている屋根。平成25年の修理により、上下に動かせるようになった。



後方には、精巧な梅の模型が飾られている

2階部分

壁には、確認用に書き入れる文字を掲示



墨を入れるための紙コップ

2階部分に上がるための入り口は、大人一人がやっと通ることができる大きさ

1階部分

2階への入り口

2階と連絡するための電話

紙吹雪を舞い上げるための発電機

2階へ上がるための台



字書き人形のヒミツ



字書き人形が書いた「令和」。ほかにも、いろいろな文字を書くことができる

筆に墨を付けるのは1回きり。途中で追加しない

六つのからくり糸などを操り、繊細な動きを表現する



人形を設置する梁はレールになっており、人形を前後に動かすことができる。額持ち人形は左右に動く

首、肩、肘、足の付け根、膝を動かすことができる



右回転、左回転を繰り返して、喜びを表す

着物をうまく着せないとスムーズに動かない



人形の着物には、細かい刺繍が施されている



文字はこんなふう 書きあがります



其の志

何を書くのかな?

其の式

わく わく

其の参

あとちょっと...

其の返

「豊」書けたよ!

「菅公」の動画をYouTubeで見ることができます



四日市祭とは

四日市祭は、350年以上の伝統をもつ諏訪神社の祭礼です。戦前は、氏子町ごとが競って趣向を凝らし、多い時には30もの豪華絢爛の山車や練り物が登場しました。一目見ようと多くの見物客があふれ、東海の三大祭(他に「京都祇園祭」「近江長浜祭」)の一つと称されていました。

新丁が誇るからくり山車「菅公」

「菅公」は、明治初期に新丁の町衆によって作られ、地域の人々から「菅公さん」と呼ばれて親しまれてきました。しかし、昭和20年の空襲で、大入道と鯨船以外のほかの山車とともに「菅公」も焼失してしまいました。

終戦から3年、まちの復興を願い、また子どもたちに学問の大切さと楽しさを感じてもらおうと、有志が

やぐらを再建しました。当時はからくり人形までは復元できず、代わりにまちの子どもたちが山車に乗って演じていました。

昭和27年に七代目玉屋庄兵衛により、菅原道真、字書き、額持ちの3体のからくり人形が復元され、平成2年には前柵の人形が、八代目玉屋庄兵衛により創建時の童女の巫女に復元されました。



戦前(焼失前)の「菅公」

私が子どもの頃は、「四日市祭」が平日に行われていました。参加する子どもは学校を早退したり、休んだりすることが一般的で、地域全体でまつりを大切にしていた印象があります。そんなこともあり、私は根っからのまつり好きになり、大人になってからもお囃子が聞こえるとわくわくして、まつりの日には会社を休んで参加するほどでした。

現在、山車や練り物を持つ市内の団体で構成している「四日市山車文化財等管理者連絡協議会」で、県内だけでなく、愛知県、岐阜県、滋賀県など近隣の市町に視察に出掛け、まつりや山車を保存していく方法を情報交換しています。



菅公さんは戦争や伊勢湾台風に見舞われましたが、地域の人々の協力で少しずつ復興してきました。

新丁菅公山車保存会
安田和郎さん

山車の前で三味線や笛や鼓を演奏するお囃子は、戦後しばらくは録音したものを流していましたが、最近では、演奏してくれる人が増え、生演奏なのも自慢です。

山車を動かす人やお囃子を演奏する人はみんな日中仕事をしているので、練習時間が限られています。特に人形はからくりが複雑で、動かすことが難しく、習得するには時間がかかります。この素晴らしい文化を次世代に引き継ぐために、子どもたちが菅公さんに触れる機会を設けています。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら夏の大四日市まつりは中止となりましたが、秋に開催予定の四日市祭では夏のみまで楽しんでいただけるよう、どの地区も張り切ると思っています。観客の皆さんや出演者と盛り上げていきたいです。



【「大四日市まつり」開催中止のお知らせ】

「大四日市まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年の開催を中止することとなりました。

●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は

観光交流課 ☎ 354-8176 FAX 354-8315
広報マーケティング課 ☎ 354-8244 FAX 354-8315